

清水澄 トシマツ ハム法學者、法學博士。慶應四年八月十一日加賀國金澤生れ、昭和二十二年九月、二十五日歿（八六一—九四七）。號晴月。明治二十七年帝國大學法科大學佛法科卒。内務省參事官を経て學藝院教授となる、歐洲留學後東京帝大講師兼任。のち行政裁判所長官、樞密顧問官、昭和二十一年最後の樞密院議長となる。この間帝國藝術院院長、宮内省・内大臣府各御用掛と歴任。帝國學士院會員。二十二年八月藏進放逐分を受けたる直後、國體の護持と、天皇の健任と祈念する旨の遺書を残し、熱海で投身自決。

著書に、『社會主義下社會政策』（明治四十四年一月二十一日博文館）、『國體論』（昭和二十二年九月二十日敎化團體聯合會「敎化資料」）、『大日本帝國憲法略解』（昭和四年七月十五日日本放送協會關東支部）等。